

若手教員の“働きやすさ・働きがい”への手立て

広尾町立豊似小学校
教頭 吉岡 謙作



1 具体的な取組

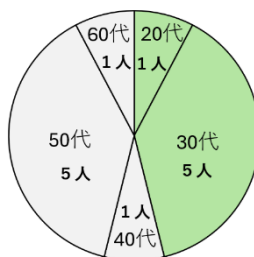
「豊小ファイブ」とは

「学びをつなぎ、心をつなぎ、力を出し切る子の育成」という学校経営の重点を基に、初任段階・中堅段階の教員を一堂に集めた研修の場のこと。「豊小ファイブ」を通じて教員間で相互理解を深め、よりよい人間関係構築を図り、教員のパフォーマンスが十分発揮できるように設定。

取組内容

- 年の差がない先輩教員からの助言・支援や若手教員からの質問のほか、日頃の学習指導案や発問の仕方、分掌業務、保護者との連携等、何気ない会話や雑談を通して心理的安全性を保つ職場づくりを確立することを目指している。
- 〇ＪＴを併用しつつ、若手教員の人材育成や不安の軽減、組織の活性化を図ることがねらいである。
- 月に２回程度、職員会議後など、放課後の時間が少しあるときに行う。
- 進行は、教職年数１０年に近い３人の教員が順番で行う。

本校の教職員の構成（全１３人）



全職員に対して、30代以下が6人（初任段階1年目が2人、中堅研修対象が1人を含む）の4割強。

実際の「豊小ファイブ」の流れ（1学期で4回実施）

【目的】日頃の実践や悩みを気軽に持ち寄り、前向きな気持ちになれる場を目指す。

- ①普段の取組や実践についての交流（今力を入れているところ、最近やってみてよかったこと、ちょっと工夫したこと）
- ②学級での出来事や最近感じていること等の近況報告
- ③質問＆雑談タイム（これってどうしてる？ ～で困ったときにはどうすればいい？ 気になること）

2 今後に向けて

- 今現在、月２回程度で行っているが、必要なときに必要なだけ実施する習慣の確立
- 初任・中堅・ベテラン段階にかかわらず、自然発生的に実施できる体制の構築
- 短時間での実施
- 「集まれるとき」や「気になることが出てきたとき」に集まれる風土の醸成



まとめ

定例から、自然発生的なファイブへ。